



# みくびだより

発行 御首神社社務所

## 御挨拶

拝啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹が感じられるようになりましたが、皆様方におかれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

天皇陛下におかけられましたは、二月十八日に冠動脈バイパス手術をお受けになられ、翌月四日無事ご退院遊ばされましたことは、国民の一人として安堵致しております。ご退院後僅か七日後の三月十一日には、東日本大震災一周年追悼式に御臨席なされ、「国民皆が被災者に心を寄せ、被災地の状況が改善されていくよう期待しています。」とお言葉をお述べになられました。大震災から一年が経過しておりますが、被災地復興・被災者支援等、未だ問題が山積みであります。私どもは、大御心に少しでも報い奉るべく国民が一丸となって向き合わなければなりません。

去る、三月二日自立式電波塔としては世界一の高さを誇る東京スカイツリーの竣工式が行われ、その基本構造は、神社寺院建築における伝統技術（伝統美）である「心柱」「そり」「むくり」が盛り込まれており、古の伝統建築技術と最新の建築技術が融合した建造物と耳にしております。五月二十二日には目出度く開業いたし、周辺地域の活性化はもとより、観光資源として大いに注目を集めており、明るく活況な話題となっております。

さて、伊勢神宮では第六十二回式年遷宮が来年秋に斎行されます。今から六年前に当社崇敬会設立二十周年記念として会員の皆様と共に木曳き行事に参加させていただきました。誇り有るご奉仕が叶いましたことが思い起こされます。

尚、来年夏には「お白石持行事」が行われます。先のお木曳き行事同様に特別神領民の参加枠が設けられる事になりましたので、当社崇敬会と致しましても次年の研修旅行に、お白石持行事への参加を前向きに検討している次第でございます。実施が明確なものとなりましたら、会員皆様に改めてご案内させていただきます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたし、御挨拶とさせていただきます。 宮司 三浦 篤

# 『天孫降臨 その11』 (中絶編)

猿田毗古神が道を塞いでいるので、えつにも困ったと天宇受売命は、「猿田毗古神よ。あなたがこのに居る理由をどうか教えてください。このままだと瀬瀨若の命さまがお通りになれません。」と尋ねました。すると猿田毗古神は「実は…瀬瀨若の命さまが無事に葦原の中へ国へ着けるように、道案内をしたいと思います。どうかワシに、その役目を任せたくれませぬか?」と答えたのです。天宇受売命は「では、天照大御神さまに相談してきましよう。」と言って、すぐに天照大御神の所へ戻りました。理由を聞いた天照大御神は「そこでしたか。葦原の中へ国の神が道案内をしてくれるとは、心強いですね。是非お願いしましよう。それと、天宇受売命よ、そなたも瀬瀨若の命と一緒にいってあげてください。」と言いました。続けて「天兒屋命・布刀玉命・伊弉許理度売命・玉祖命・思兼神・手力男神・天石門別神も一緒にいって行ってください。」と他にもたくさんのお神様をお供に呼びました。そして八咫瓊の玉と八咫鏡と草薙の剣を瀬瀨若の命に手渡しました。特に鏡を渡す時、「この鏡を私の姿と思って、大切に

大切にしてい、いつも清らかな気持ちでお祭りをして下さい。そのお祭りに関する事は、思兼神にお願ひしてありますので、良く聞いてください。」と言ひ、他の神様たちに「お供をお願ひした皆さんは、瀬瀨若の命を色々と手伝ってあげて下さいね。」と伝えました。

さて、瀬瀨若の命や他の神様たちの準備も出来て、いよいよ出発の時です。瀬瀨若の命は天照大御神に「皆の準備が整ったようですので、それでは行って参ります。」と言ひ、猿田毗古神を先頭にしてい、たくさんのお神様たちと列を作って、





◎ おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！  
 古来より伝わる神話を、お子さまやお孫さまと一緒に読んでいただき  
 子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

葦原の中ノ国へ向けて旅立ちました。その行列はあまりにも  
 神々しく、あまりにも立派な様子なので、葦原の中ノ国の神  
 様たちは見とれるばかりでした。  
 瀬瀬吉の命たちが最初に辿り着いたのは、高干穂という場  
 所でした。(今の宮崎県と一口言い伝えがあまります) 高干穂

の様子を見た瀬瀬吉の命は「この土地は笠沙の岬(鹿児島県  
 の岬)にまっすぐ続いている、朝日も夕日も輝がしく照り差  
 す、とても良い場所ですね!」と、とても気に入って、立派  
 な宮殿を建てて住む事に決めました。早速、太く立派な柱を  
 建て、天にも届く勢いのある立派な宮殿が出来上がりました。  
 〇〇〇

### 祭事報告

#### ▼浄火祭

二月三日午前十時齋行

前日の二日に降雪があり、当日は氷点下七度という大垣市観測史上初という極寒の中で、厳粛に神事が執り行われました。

本年も、氏子区域から厄年に該当する三名の厄男の皆さんが、奉納されました絵馬や金幣串を手に取り、奉納者の方々の心願成就を祈念し、忌み火を以てお焚き上げ致しました。

また、境内では敬神婦人会会員による、甘酒の接遇があり、ご参拝の皆様は生姜の効いた甘酒を頂かれ寒さに冷え切った身体を温めておられました。



#### ▼例大祭

四月二日午後三時齋行



本年の例大祭は、桜こそ咲き初めでございましたが、お神輿を担ぐ子供達が賑々しく集い、朝一番から「わっしょい、わっしょい」と活気に満ちた掛け声で祭に華を添えておりました。

### 諸祭典（抜粋）

- ▼ 月次祭
- ▼ 年越大祓
- ▼ 元旦祭
- ▼ 左義長
- ▼ 祈年祭
- ▼ 鉾山神社例祭
- ▼ 南宮神社例祭

### 御首神社ホームページ 神職への質問 Q & A

**問** 実家には子供の頃使っていた古い人形や玩具が多数あります。神社でお祓いと申しますか処分をお願いすることは出来ますか？

**答** 当社には、焼納感謝祈禱がございます。このご祈禱は、古くなくった神棚や愛着のある品、故人が生前大切にしていた物等を焼き納めます。屋外（遙拝所前）にて申込者の参列のもとに執り行われます。天候にも左右されますし、対象物の大きさ・材質・量などに制限がございますので、ご来社前にお電話にて確認頂けると良いかと存じます。

**問** 初宮参りに伺いたいと思いますが、祈禱の時両親や親類も一緒に拝殿に入って、お祓いを受けることは出来ますか？

**答** 初宮祈禱に限らず、基本的に全ての御祈禱において、ご家族・ご親族やお付き添いの方も拝殿までお進み頂けます。ごく希ではあります。が、拝殿の収容人数を超える場合は、控え室でお待ち頂くご案内をさせて頂くことも有るかと思存じます。

### 崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂う者此の社に願えば靈験あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂きまします。

### 会員の特典（抜粋）

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ お誕生特別祈禱の実施
- ・ 誕生特別祈禱の授与
- ・ 及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 昇殿参拝

### 会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

### （お問い合わせ先）

神社社務所まで  
〇五八四一九一三七〇〇

### 崇敬会 会員の皆様へ

### 昇殿参拝について

崇敬会会員の特典として「昇殿参拝」がございます。これは、会員証のご呈示により、拝殿での参拝が許可されるもので、これまで所謂「正式参拝」に相当する方式でお仕えておりました。その為相応しい身なりにてご参拝頂くことが参拝条件となり、残念ながら参拝をご遠慮していただいた事も多々ございました。

そこで、従前の参拝方式は「正式参拝」と位置づけ、崇敬会会員による「昇殿参拝」の方式を変更することになりました。これは、会員の皆様が、「正式参拝」までとは言わず、もう少し安易にご神前での参拝が出来るようにご用意した方式であります。具体的な流れとしては、社務所受付に会員証をご呈示になり、神職或いは巫女の誘導のもとにお進み頂き（混雑時は控え室にて待機）、拝殿に参入の後、正座にて二礼・二拍手（祈念）・一礼の作法に従いましてご参拝頂きます。その間、誘導しました者は、傍らにて見守らせていただきます。参拝終了後

は速やかに拝殿から退出となりません。従いまして崇敬会会員の方はご神前でのご参拝を希望される日に神社社務所にお越しになれば、基本的に昇殿参拝が叶います。

昇殿参拝における参拝初穂料は、特別に定めてはございませんが、【お供え】・【お志】などご持参の方は、受付にお申し出下さい。ご神前にお供えいたし、参拝終了後にお下がりをお授与いたします。

また、服装につきましては、平服で可としておりますが、ご神前でございますので、神様に失礼のない範囲とさせていただきます。但し「昇殿参拝」は、例大祭・

お正月期間はお仕え致しかねます。また土日祝祭日等の混雑時には、お待ち頂く場合や参拝が出来ない場合もございますので、その旨ご承知置き頂きますようお願い申し上げます。

「昇殿参拝」は、本年七月一日からの実施となります。多数の崇敬会会員の皆様方のご参拝を心よりお待ちしております。

### 第六十二回式年遷宮

### お白石持行事

平成二十五年には第六十二回式年遷宮が行われます。それに向けて神宮神宮では数々のお祭りが執り行われております。

来年の一番初めの行事として「お白石持行事（おしらいしもちぎようじ）」というものがございませぬ。この行事は、古くから伊勢の旧神領民が揃いの法被を身に付け、二見で浜参宮を行い心身を祓い清め、内宮は川曳きで外宮は陸曳きでお白石を運び入れ、完成した御正殿が建つ御敷地（みしきち）にお白石を捧持して、心を込めて敷詰める行事であります。



お白石（撮影／永井雅和）



お白石持行事（提供／神宮司庁）

前々回にあたる第六十回式年遷宮より、全国の崇敬者も「特別神領民」としてご奉仕する事が許されるようになり、また前回のお白石持ち行事には、旧神領民・特別神領民併せて凡そ二十一人の崇敬者が全国から集いました。来年のお白石持行事には、前回を上回る崇敬者が賑々しく集うと予想されております。当神社崇敬会と致しましては、来年七月中から八月末の間でのお白石持行事への参加を企画中でございます。

### 祭事案内

#### ▼夏越大祓

八月五日午後三時半

この神事は、半年の間に知らず知らずに受け犯し心と身体についた罪や穢れを人形（ひとがた）に託し、忌み火にて焼き上げるお祓いでありませす。

神事終了後から午後五時半頃まで茅の輪くぐりを行いますので、



皆様ご自由に輪くぐりをされ、暑い夏を健康にお過ごし頂きたいと存じます。

また、夏越大祓の人形（ひとがた）につきましては、期間中社務所にごさいますので、ご自由にお持ち頂き、期日までに神社にご持参頂くか、或いは郵送下さいませようご案内申し上げます。

#### ▼七五三祝祈禱

十一月



七五三祝いは、平安時代中頃に公家の間で三歳から七歳までの男女のお祝いの儀式が行われていた事が起源と言われております。

子供の成長に節目をつけてその年齢まで無事に成長出来た事を大神様に感謝申し上げると共に、今後の更なるお護りをお願いする大切なお祭りであります。

平成 24年 七五三		
	数え歳	満年齢
7歳	平成 18年 生まれ	平成 17年 生まれ
	平成 19年 生まれ	平成 18年 生まれ
5歳	平成 20年 生まれ	平成 19年 生まれ
	平成 21年 生まれ	平成 20年 生まれ
3歳	平成 22年 生まれ	平成 21年 生まれ
	平成 23年 生まれ	平成 22年 生まれ

元々、男の子は三歳と五歳、女の子は三歳と七歳にてお祝いされてきましたが、近年は男女共に三歳・五歳・七歳にて参拝される方が多数お見えになり、その時季も十月の初めから十二月中頃までと随分長くなっております。

当神社では、七五三のご祈禱を十一月を中心にお仕えいたしております。ご家族お揃いでのご参拝お待ちしております。

#### 諸祭典（抜粋）

- ▼ 月次祭
- ▼ 農休み祭
- ▼ 西宮神社例祭
- ▼ 末廣稻荷神社例祭
- ▼ 長寿祈願祭
- ▼ 崇敬会大祭
- ▼ 新嘗祭

#### 芳銘板撤去のお知らせ

当神社の正面大鳥居をくぐると、直ぐ左手に注連縄奉賛者のご芳名を記した芳銘掲示板が設けてございました。

こちらは、奉賛開始時より凡そ一年半に亘り、掲げさせて頂きま

したが、去る四月三日大型の低気圧による大風を受けて、芳銘掲示板の支柱根元より折れ、倒壊いたしました。また、芳銘板も風雨により随分と痛みが進んでおりましたので、併せて撤去させて頂きました事を、ご報告申し上げます。



尚、芳銘板につきましては、来年の左義長（一月十五日）にてお焚き上げさせて頂きます。

編集後記  
今号は「神職への質問」を復活致しました。社報の感想・質問等  
どしどしお寄せ下さい。

#### 御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の二  
TEL(〇五八四)九一一三七〇〇  
Eメール syamusyo@mikubi.or.jp